



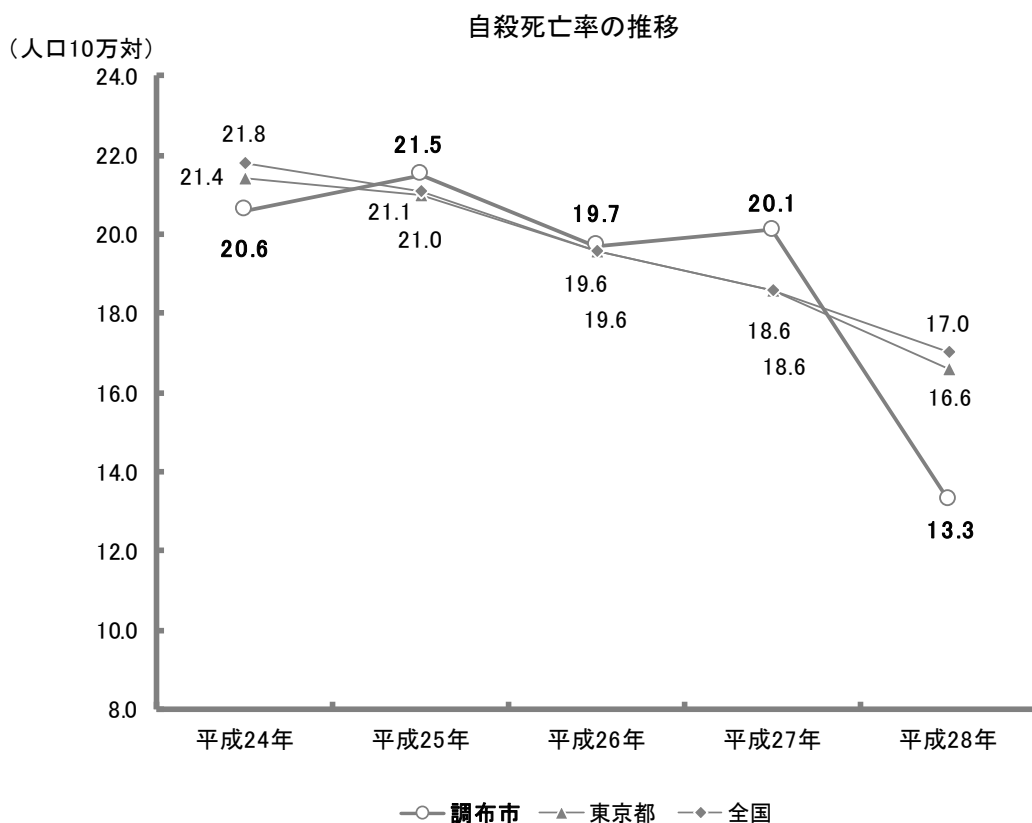
第2章

調布市における自殺の特徴

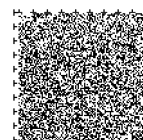
1 自殺の現状

(1) 自殺死亡率※の推移

平成24年以降の調布市の自殺死亡率の推移は、全国・東京都と同様、減少傾向となっています。平成28年には自殺死亡率が13.3と低下し、平成24年以降最低となりました。

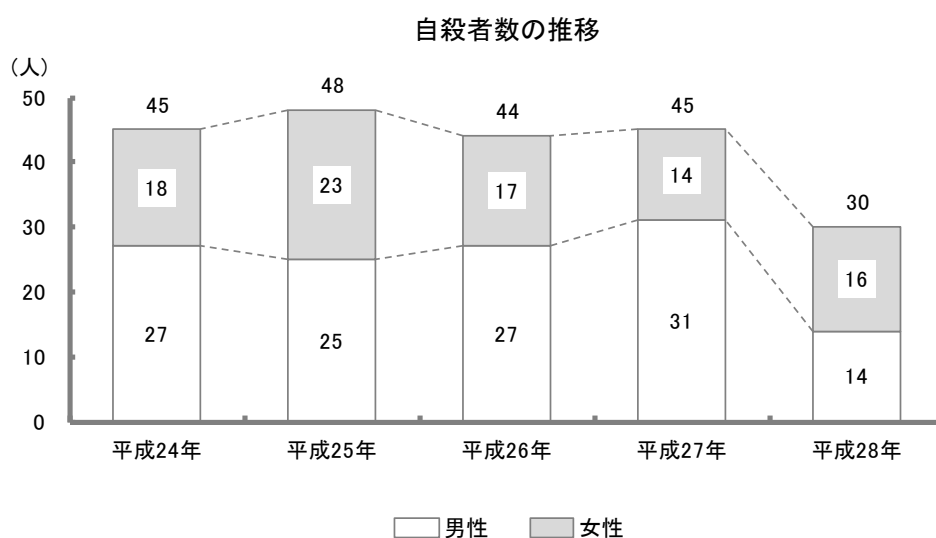


資料：厚生労働省ホームページ，地域における自殺の基礎資料※【自殺日・住居地】



(2) 自殺者数の推移

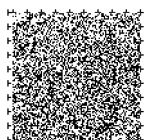
平成24年から平成28年の5年間の自殺者数の推移をみると、45人前後で推移していましたが、平成28年には30人となっています。男女別では、平成27年まで女性に比べ男性が多い傾向にありましたが、平成28年では男性が14人、女性が16人と男性に比べ女性が多くなっています。



資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2017）」*

* 「地域自殺実態プロファイル（2017）」とは

自殺総合対策推進センター*が作成したデータで、国勢調査、人口動態統計調査、企業・経済統計、生活・ライフスタイルに関する統計（国民生活基礎調査、社会生活基本調査等）に基づき、自治体ごとの自殺者数や自殺死亡率*についてまとめて、自殺の実態を明らかにするものです。



(3) 地域の自殺の特徴

平成24年から平成28年の5年間の自殺者数は合計212人（男性124人、女性88人）です。その特徴をみると、1位が「無職で同居家族がいる60歳以上の男性」、2位が「無職で同居家族がいる60歳以上の女性」、3位が「有職で同居家族がいる40～59歳の男性」となっています。

また、背景になる主な自殺の危機経路では、配置転換、過労などの就労に関するものや、失業、生活苦などの生活困窮に関するものがあります。

地域の主な自殺の特徴（自殺日・住居地、平成24～平成28合計）

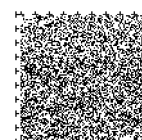
上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺率*1 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路*2
1位： 男性60歳以上 無職同居	20	9.4%	33.1	失業（退職）→生活苦+身体疾患→自殺
2位： 女性60歳以上 無職同居	20	9.4%	19.9	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
3位： 男性40～59歳 有職同居	17	8.0%	14.1	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位： 女性60歳以上 無職独居	16	7.5%	41.1	死別・離別+身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位： 女性40～59歳 無職同居	14	6.6%	17.6	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺

資料：自殺総合対策推進センター※「地域自殺実態プロファイル（2017）」

順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率※の高い順とした。

*1 自殺死亡率のこと。母数（人口）は平成27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センター※にて推計した。

*2 「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書2013（ライフリンク）を参考にした。

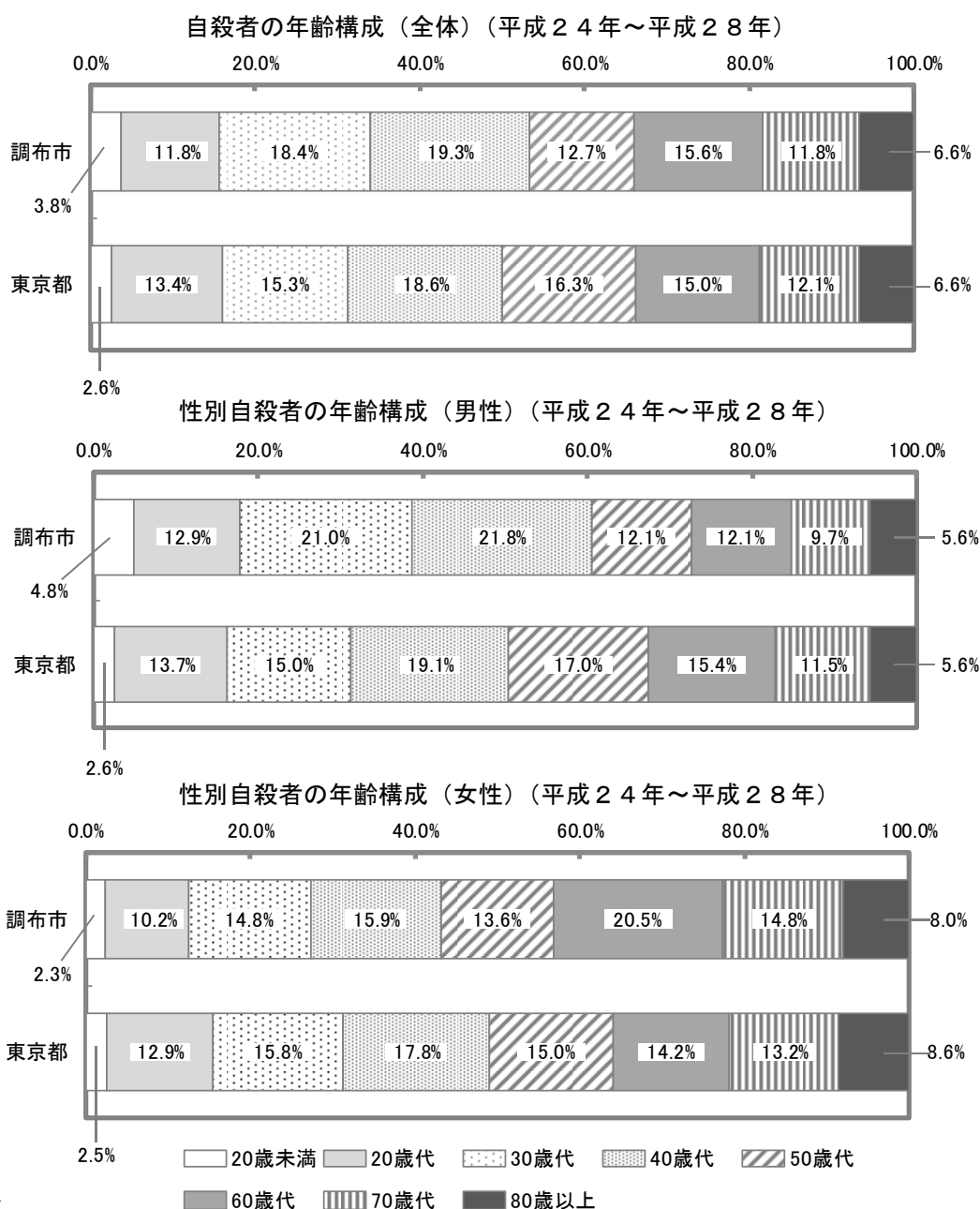


(4) 年代別自殺者の状況

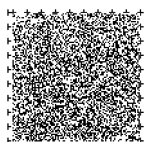
ア 自殺者の年齢構成

平成24年から平成28年の5年間の自殺者の年齢構成をみると、30、40歳代の割合が高く、東京都に比べ20歳未満、30、40、60歳代が高くなっています。

性別でみると、男性は30、40歳代の割合が高く、東京都に比べ20歳未満、30、40歳代が高くなっています。また女性は60歳代の割合が高く、東京都に比べ60、70歳代で高くなっています。



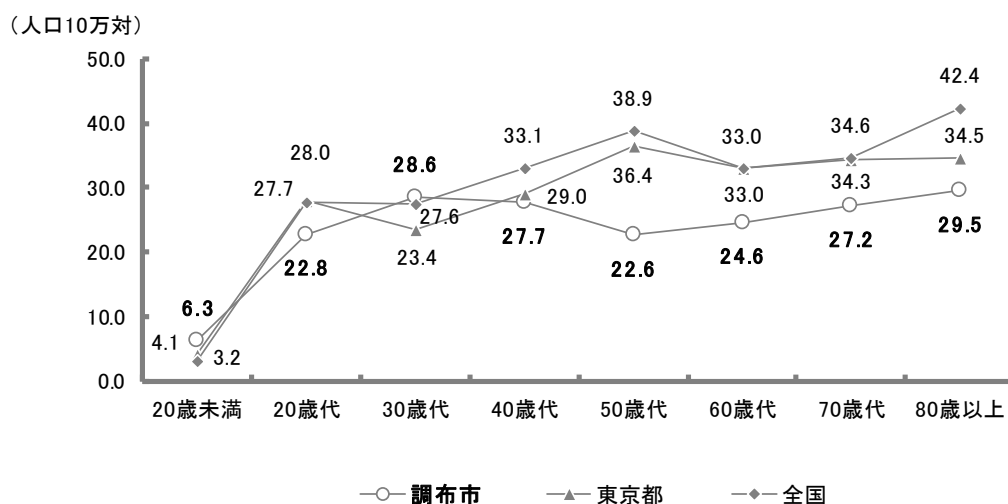
資料：自殺総合対策推進センター※「地域自殺実態プロフィール（2017）」



イ 性別・年代別の自殺死亡率※

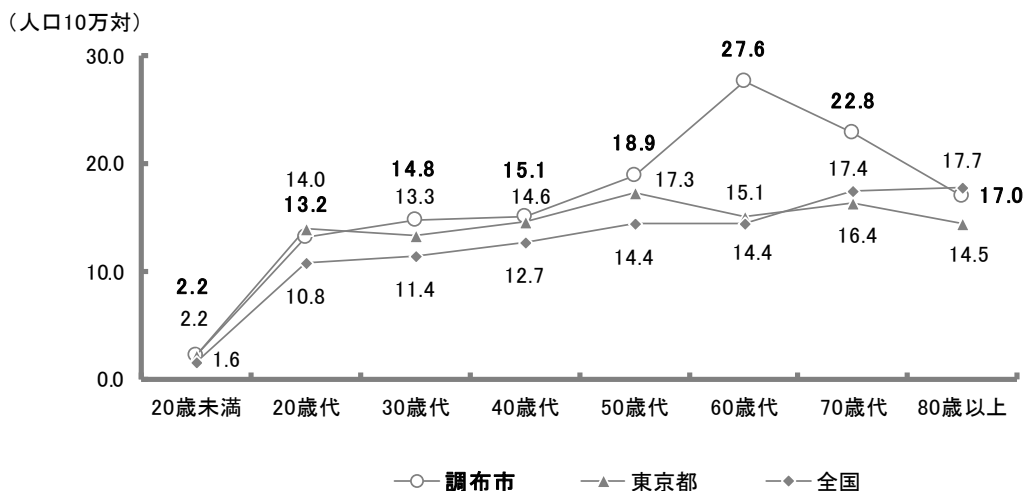
平成24年から平成28年の5年間の性別・年代別の自殺死亡率をみると、調布市は、男性が全国・東京都に比べ低い傾向にあるものの、20歳未満、30歳代では高くなっています。また、女性は全国・東京都に比べ高い傾向があり、特に60、70歳代の自殺死亡率が高くなっています。

年代別自殺死亡率（男性）（平成24年～平成28年の合計）

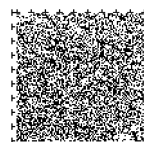


資料：自殺総合対策推進センター※「地域自殺実態プロファイル（2017）」

年代別自殺死亡率（女性）（平成24年～平成28年の合計）



資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2017）」

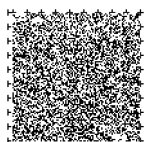


ウ 年代別にみた死亡原因の状況

平成29年における年代別の死亡原因の状況をみると自殺が20歳代、30歳代では第1位、40歳代では第2位と、若年層の死因の上位になっています。

	第1位	第2位	第3位
10歳代	悪性新生物	—	—
20歳代	自殺	脳血管疾患	—
		不慮の事故	
30歳代	自殺	悪性新生物	—
40歳代	悪性新生物	自殺	脳血管疾患
		心疾患	
50歳代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60歳代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
70歳代	悪性新生物	心疾患	肺炎
80歳以上	悪性新生物	心疾患	老衰

資料：東京都多摩府中保健所 事業概要 平成29年版 主要死因別死亡数より抜粋



エ 60歳以上の自殺の内訳（同居人の有無別）

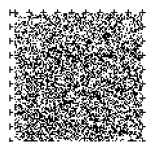
平成24年から平成28年での5年間における、60歳以上の自殺の内訳を同居人の有無別にみると、男性は、いずれの年代でも同居人の有無に関わらず、全国より低くなっています。

女性は、60歳代では「同居人あり」の割合が、60歳以上のすべてで「同居人なし」の割合が高くなっています。特に70歳代での割合が高くなっています。

60歳以上の自殺の内訳（同居人の有無別）（平成24年～平成28年の合計）

性別	年齢階級	同居人の有無（人数）		同居人の有無（割合）		全国割合	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし
男性	60歳代	8	7	11.1%	9.7%	18.1%	10.7%
	70歳代	9	3	12.5%	4.2%	15.2%	6.0%
	80歳以上	5	2	6.9%	2.8%	10.0%	3.3%
女性	60歳代	14	4	19.4%	5.6%	10.0%	3.3%
	70歳代	5	8	6.9%	11.1%	9.1%	3.7%
	80歳以上	3	4	4.2%	5.6%	7.4%	3.2%
合計		72		100.0%		100.0%	

資料：自殺総合対策推進センター※「地域自殺実態プロファイル（2017）」



(5) 有職者の自殺数の状況

平成24年から平成28年の5年間の有職者の自殺の内訳については、自営業・家族従業者12人（17.9%）、被雇用者・勤め人が55人（82.1%）と被雇用者・勤め人が全国の割合と比べて高くなっています。

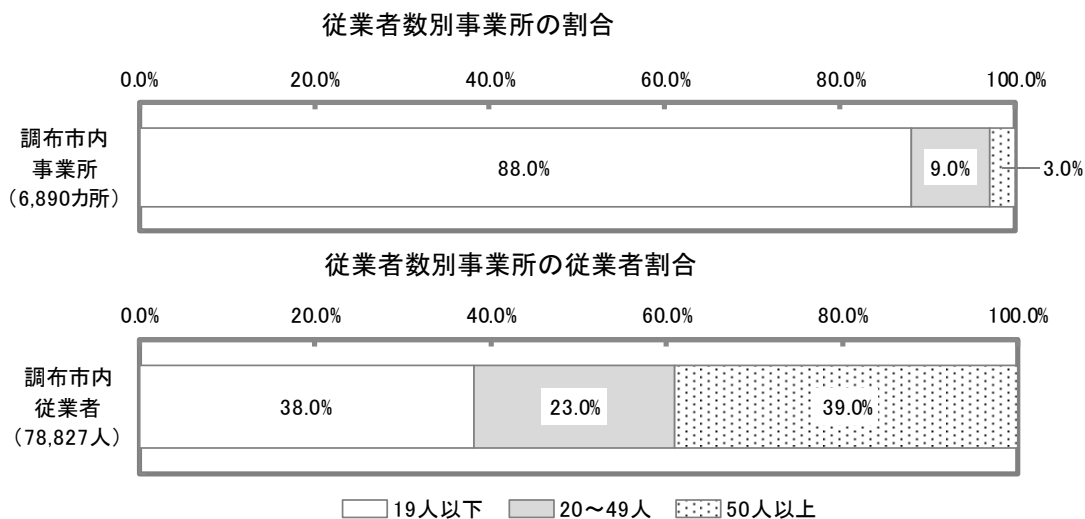
有職者の自殺の内訳（性・年齢・同居の有無の不詳を除く）（平成24年～平成28年の合計）

職業	自殺者数	割合	全国割合
自営業・家族従業者	12人	17.9%	21.4%
被雇用者・勤め人	55人	82.1%	78.6%
合計	67人	100.0%	100.0%

資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2017）」

調布市内の事業所を従業者数別にみると、「19人以下」が88.0%と最も多くなっており、次いで「20～49人」が9.0%、「50人以上」が3.0%となっています。

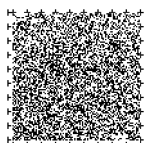
また、市内従業者を従業者数別にみると、「50人以上」が39.0%と最も多くなっており、次いで「19人以下」が38.0%、「20～49人」が23.0%となっています。



<参考>

	総数	1～4人	5～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～99人	100人以上	出向・派遣従業者のみ
事業所数	6,890	3,637	1,578	840	325	270	134	85	21
従業者数	78,827	8,102	10,335	11,426	7,695	10,261	9,274	21,734	-

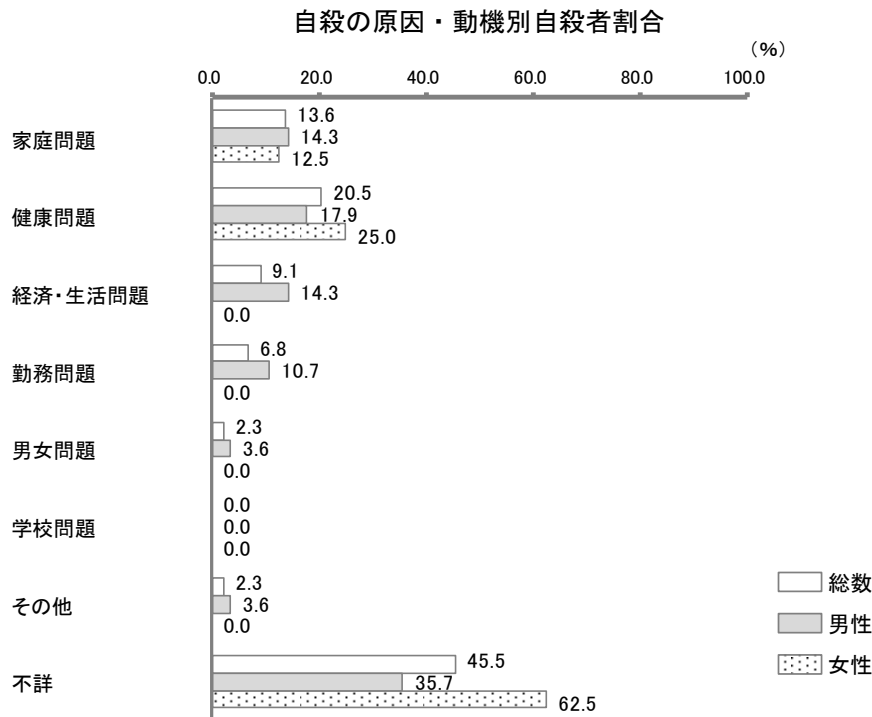
資料：総務省統計局平成26年経済センサス-基礎調査



(6) 自殺の原因・動機別自殺者割合

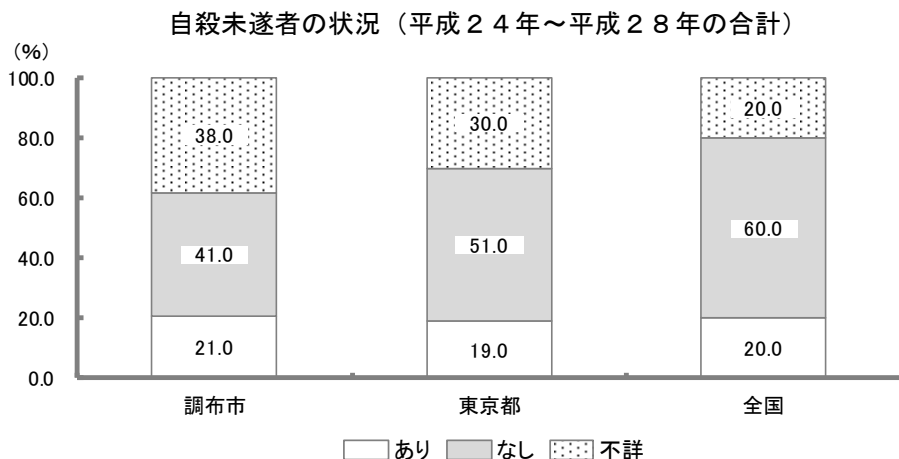
調布市で発生した自殺の原因・動機は、不詳を除くと「健康問題」が最も多く、次いで「家庭問題」、「経済・生活問題」の順となっています。

男性では、「健康問題」「家庭問題」「経済・生活問題」による自殺割合が高く、女性では、「健康問題」「家庭問題」による自殺割合が高くなっています。

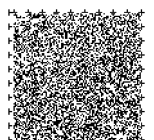


資料：厚生労働省，地域における自殺の基礎資料※【自殺日・住居地】

平成24年から平成28年の5年間に自殺した人の中で，過去の自殺未遂歴の有無をみると，「あり」の割合は21.0%で東京都・全国と比べ大きな差異はみられません。



資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2017）」



2 市民意識調査結果からみた現状と課題

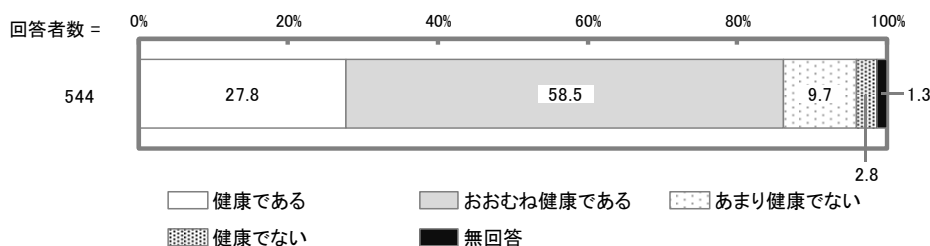
(1) 調査の概要

- 目的：市民のこころの健康・自殺対策に関する意識や実態を把握し、自殺対策計画を策定するための基礎資料とすることを目的とする。
- 名称：調布市こころの健康・自殺対策に関する市民意識調査（「市民意識調査」という）
- 対象：住民基本台帳から無作為抽出による18歳以上の市民2,000人
- 期間：平成30年6月21日～7月5日
- 方法：郵送による配布・回収
- 回答数：544人（回収率27.2%）

(2) 調査結果

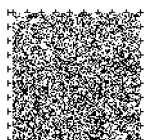
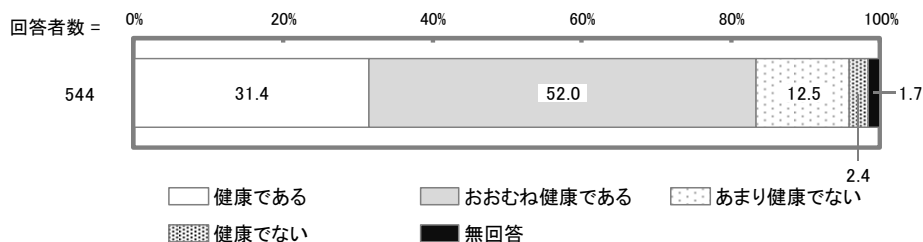
ア からだの健康状態

現在のからだの健康状態について、「健康である」と「おおむね健康である」をあわせた“健康である”と感じている人の割合が86.3%、「あまり健康でない」と「健康でない」をあわせた“健康でない”と感じている人の割合が12.5%となっています。



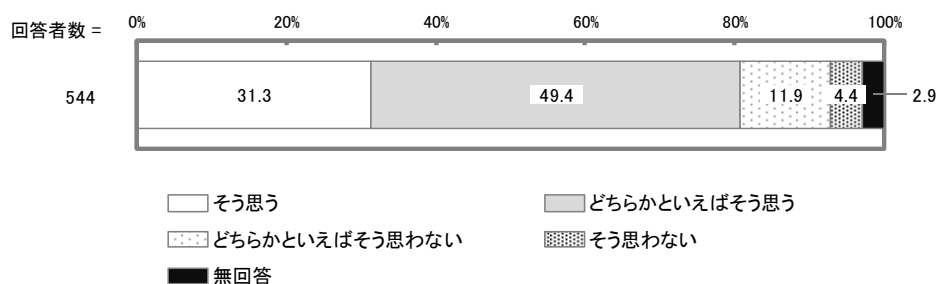
イ こころの健康状態

現在のこころの健康状態について、「健康である」と「おおむね健康である」をあわせた“健康である”と感じている人の割合が83.4%、「あまり健康でない」と「健康でない」をあわせた“健康でない”と感じている人の割合が14.9%となっています。



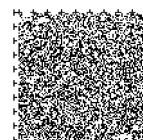
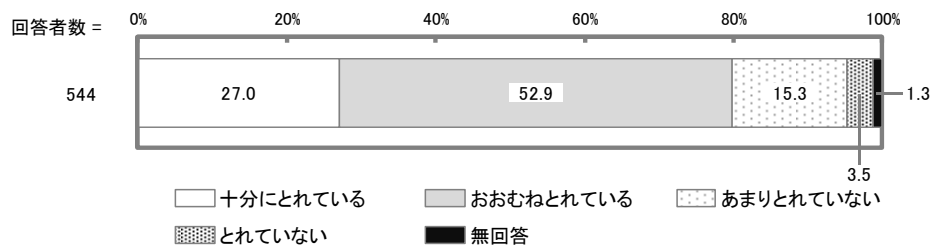
ウ 自分のことが好きか

自分のことが好きだと思うかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“自分のことが好き”な人の割合が80.7%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“自分のことが好きではない”人の割合が16.3%となっています。



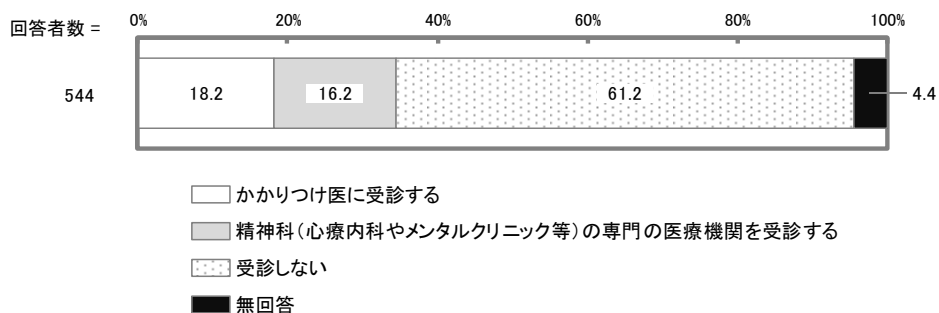
エ 十分に睡眠がとれているか

この1か月間くらいで、十分に睡眠がとれているかについて、「十分にとれている」と「おおむねとれている」をあわせた“十分に睡眠がとれている”人の割合が79.9%となっています。



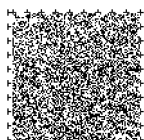
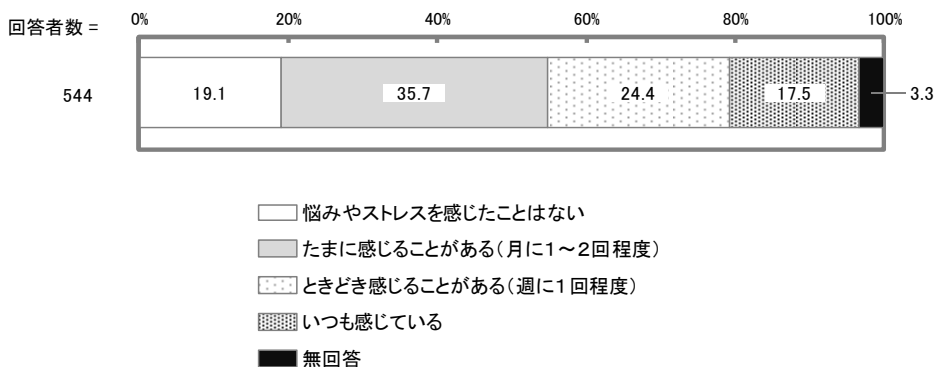
オ こころの不調や不眠時に、医療機関などを受診するか

こころの不調（不安感，イライラ感，落ち込み等）や不眠が2週間以上続く場合，医療機関などを受診するかについて，「受診しない」の割合が61.2%と最も高く，次いで「かかりつけ医を受診する」の割合が18.2%，「精神科（心療内科やメンタルクリニック等）の専門の医療機関を受診する」の割合が16.2%となっています。



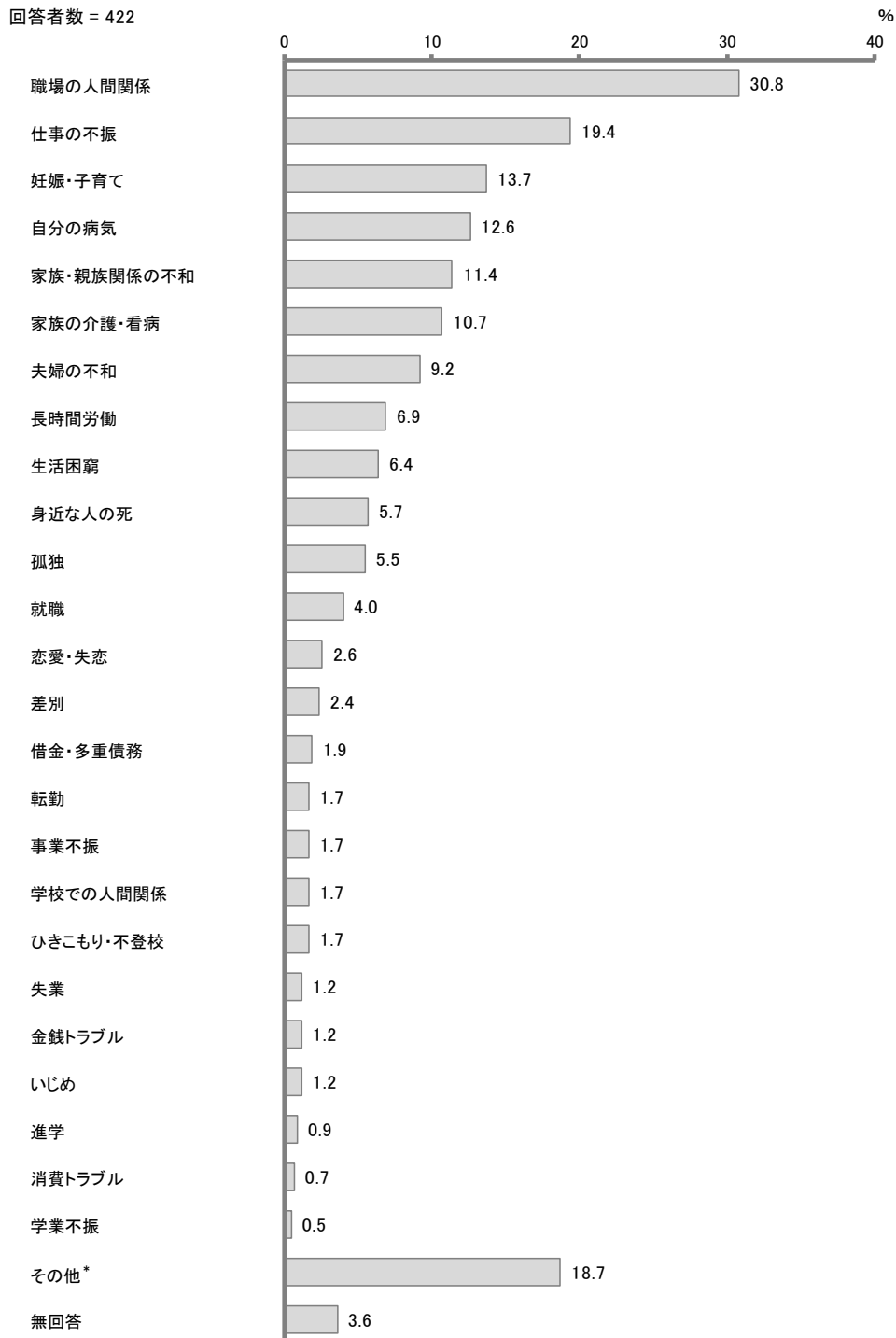
カ(1) 悩みや不安，ストレスを感じたか

過去1か月間で悩みや不安，ストレスを感じたことがあるかについて，「たまに感じることがある（月に1～2回程度）」と「ときどき感じることがある（週に1回程度）」と「いつも感じている」をあわせた“過去1か月で悩みや不安，ストレスを感じた”人の割合は77.6%となっています。

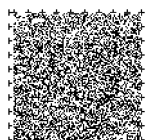


カ(2) 悩みや不安、ストレスはどのような事柄が原因か（複数回答）

カ(1)で“過去1か月で悩みや不安、ストレスを感じた”人のうち、「職場の人間関係」の割合が30.8%と最も高く、次いで「仕事の不振」の割合が19.4%、「妊娠・子育て」の割合が13.7%となっています。



*その他は自由記載とした。「地域や友人などの人間関係」、「仕事の忙しさ」、「肩こりなどの体の不調」、「将来への心配」などの回答があった。

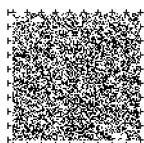


カ(3) 性・年齢別の悩みや不安、ストレスの原因（複数回答）

カ(2)を性・年齢別で見ると、男性の30～39歳、女性の20～29歳で「職場の人間関係」の割合が、男性の40～49歳、女性の20～29歳で「仕事の不振」の割合が、女性の20～29歳で「就職」の割合が、女性の30～39歳で「妊娠・子育て」の割合が高くなっています。

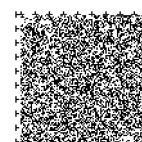
単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の人間関係	仕事の不振	妊娠・子育て	自分の病気	家族・親族関係の不和	家族の介護・看病	夫婦の不和	長時間労働	生活困窮	身近な人の死	孤独	就職	恋愛・失恋
男 20歳未満	2	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	8	37.5	37.5	12.5	—	—	—	12.5	—	25.0	—	—	12.5	25.0
30～39歳	16	62.5	25.0	6.3	6.3	6.3	—	6.3	6.3	6.3	—	6.3	—	—
40～49歳	36	44.4	44.4	8.3	5.6	5.6	2.8	5.6	8.3	2.8	5.6	5.6	2.8	2.8
50～59歳	31	58.1	35.5	3.2	16.1	16.1	9.7	12.9	9.7	3.2	3.2	6.5	—	3.2
60～69歳	23	21.7	4.3	—	26.1	8.7	21.7	8.7	—	8.7	4.3	8.7	4.3	—
70～79歳	16	18.8	18.8	—	43.8	—	—	6.3	—	6.3	6.3	6.3	6.3	—
80歳以上	10	—	10.0	—	40.0	10.0	10.0	10.0	—	10.0	10.0	—	—	—
女 20歳未満	7	—	—	—	—	28.6	—	—	—	—	—	14.3	14.3	14.3
20～29歳	26	50.0	34.6	3.8	7.7	15.4	7.7	3.8	19.2	7.7	3.8	15.4	19.2	19.2
30～39歳	44	38.6	18.2	52.3	6.8	11.4	4.5	13.6	9.1	4.5	2.3	—	4.5	—
40～49歳	69	27.5	13.0	37.7	4.3	18.8	15.9	10.1	7.2	8.7	2.9	8.7	4.3	1.4
50～59歳	47	34.0	27.7	2.1	12.8	8.5	12.8	6.4	14.9	6.4	8.5	2.1	4.3	—
60～69歳	41	14.6	4.9	—	7.3	19.5	24.4	9.8	2.4	4.9	4.9	2.4	—	—
70～79歳	26	11.5	3.8	—	26.9	3.8	11.5	19.2	—	3.8	19.2	—	—	—
80歳以上	18	—	—	—	16.7	—	5.6	5.6	—	11.1	11.1	11.1	—	—



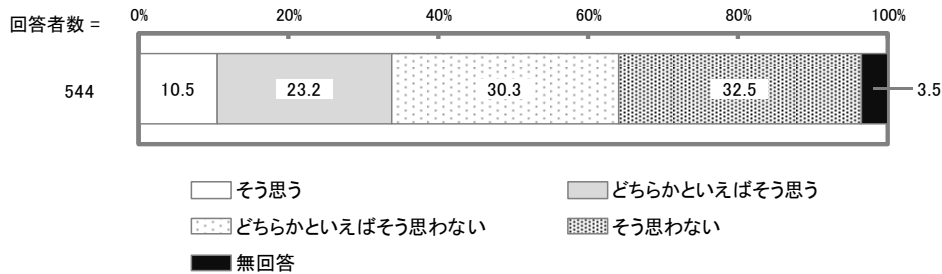
なお、この表では最も高い割合のものを■で網かけをしています。

差別	借金・多重債務	転勤	事業不振	学校での人間関係	ひきこもり・不登校	失業	金銭トラブル	いじめ	進学	消費トラブル	学業不振	その他	無回答	区分
—	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	男 20歳未満
—	—	12.5	12.5	12.5	—	—	—	—	—	—	12.5	25.0	—	20～29歳
—	12.5	—	6.3	—	—	—	—	—	—	—	—	6.3	—	30～39歳
2.8	—	2.8	2.8	—	5.6	—	—	2.8	—	5.6	—	5.6	5.6	40～49歳
9.7	3.2	3.2	—	—	—	—	—	3.2	—	—	—	16.1	3.2	50～59歳
4.3	—	—	—	—	—	—	—	4.3	—	4.3	—	13.0	4.3	60～69歳
—	6.3	—	6.3	—	—	6.3	—	—	—	—	—	18.8	—	70～79歳
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20.0	10.0	80歳以上
—	—	—	—	14.3	—	—	—	—	—	—	—	42.9	—	女 20歳未満
—	—	3.8	—	3.8	—	—	3.8	—	—	—	—	19.2	—	20～29歳
2.3	2.3	2.3	2.3	4.5	—	2.3	—	—	4.5	—	—	25.0	—	30～39歳
2.9	4.3	1.4	1.4	1.4	4.3	1.4	2.9	1.4	2.9	—	1.4	11.6	2.9	40～49歳
—	—	2.1	—	—	2.1	4.3	—	2.1	—	—	—	29.8	2.1	50～59歳
—	—	—	—	—	—	—	2.4	—	—	—	—	26.8	2.4	60～69歳
7.7	—	—	—	—	3.8	—	3.8	—	—	—	—	19.2	7.7	70～79歳
—	—	—	5.6	—	—	—	—	—	—	—	—	22.2	16.7	80歳以上



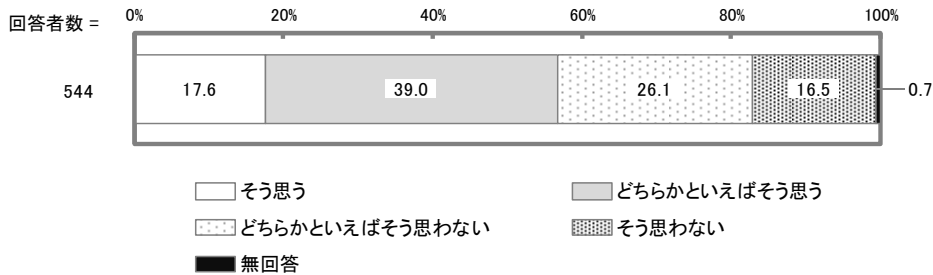
キ 悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるか

悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じるかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“ためらいを感じる”人の割合が33.7%となっています。



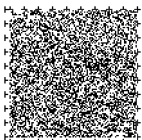
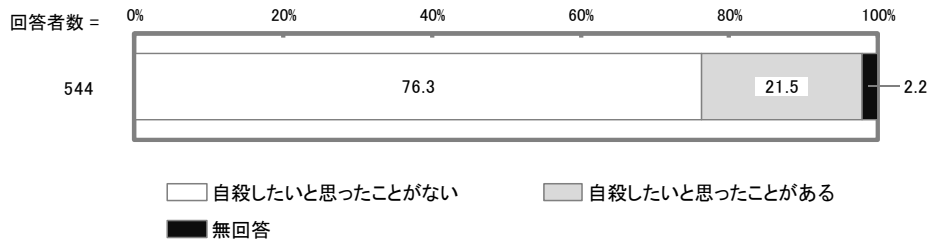
ク 地域の人々は日頃から互いに気遣い声をかけ合っているか

お住まいの地域の人々は日頃から互いに気遣ったり声をかけ合ったりしていると思うかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“気遣い声を掛け合っていると思う”の割合が56.6%となっています。



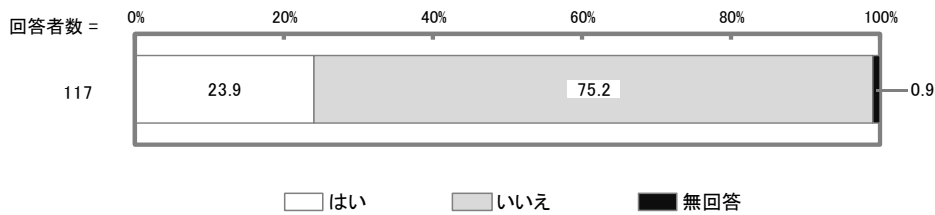
ケ(1) 本気で自殺したいと考えたことがあるか

これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがあるかについて、「自殺したいと思ったことがある」の割合が21.5%となっています。

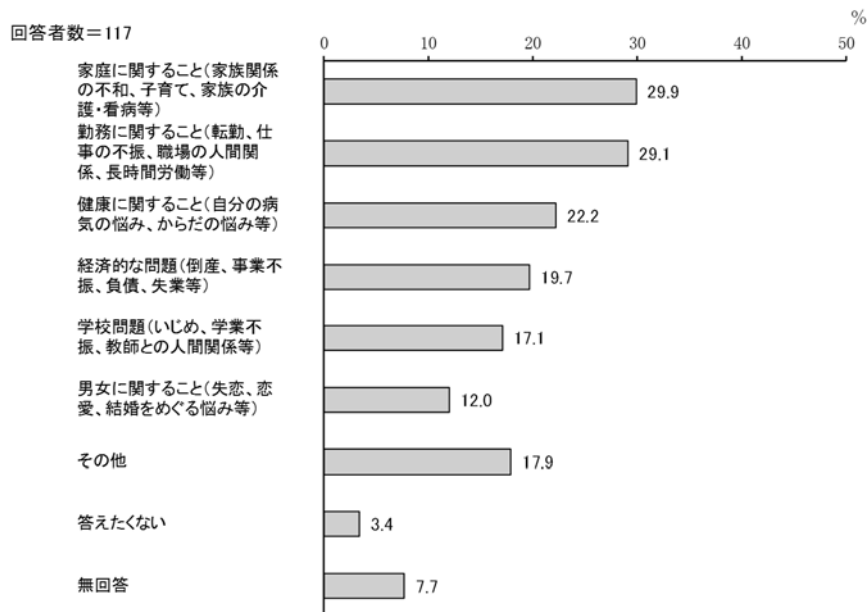


ケ(2) 最近1年以内に自殺したいと思ったことがあるか

ケ(1)で「自殺をしたいと思ったことがある」人のうち、最近1年以内に自殺したいと思ったことがあるかについて、「はい」の割合が23.9%となっています。

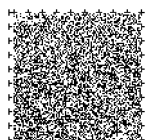
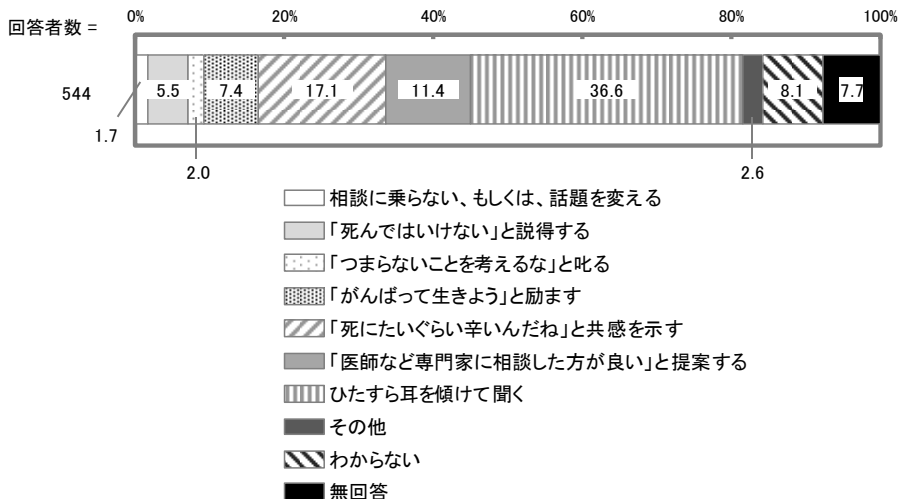


ケ(3) どのような事柄が原因か（複数回答）



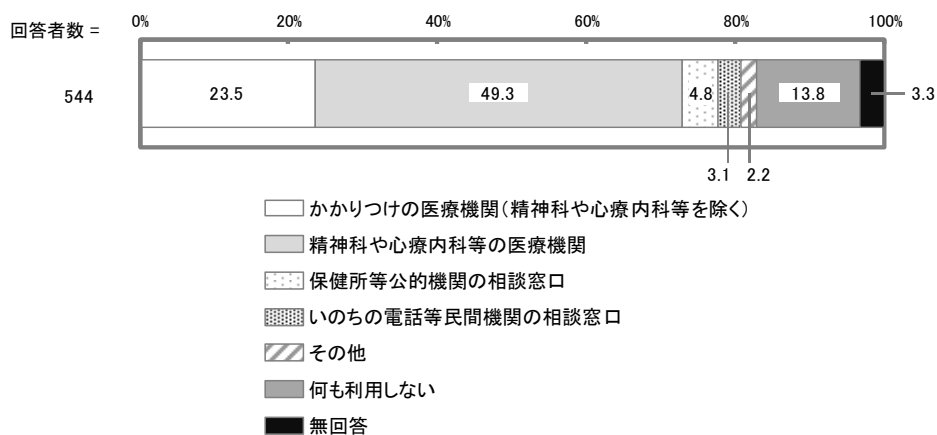
コ 身近な人から死にたいと打ち明けられた時どのように対応すると良いと思うか

身近な人から死にたいと打ち明けられた時どのように対応すると良いと思うかについて、「ひたすら耳を傾けて聞く」の割合が36.6%と最も高く、次いで「『死にたいくらい辛いんだね』と共感を示す」の割合が17.1%、「『医師など専門家に相談した方が良い』と提案する」の割合が11.4%となっています。



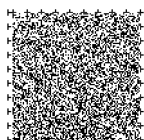
サ 自分自身の「うつ病のサイン*」に気づいたとき、なにを利用したいと思うか

自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、選択肢の専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思うかについて、「精神科や心療内科等の医療機関」の割合が49.3%と最も高く、次いで「かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）」の割合が23.5%、「何も利用しない」の割合が13.8%となっています。



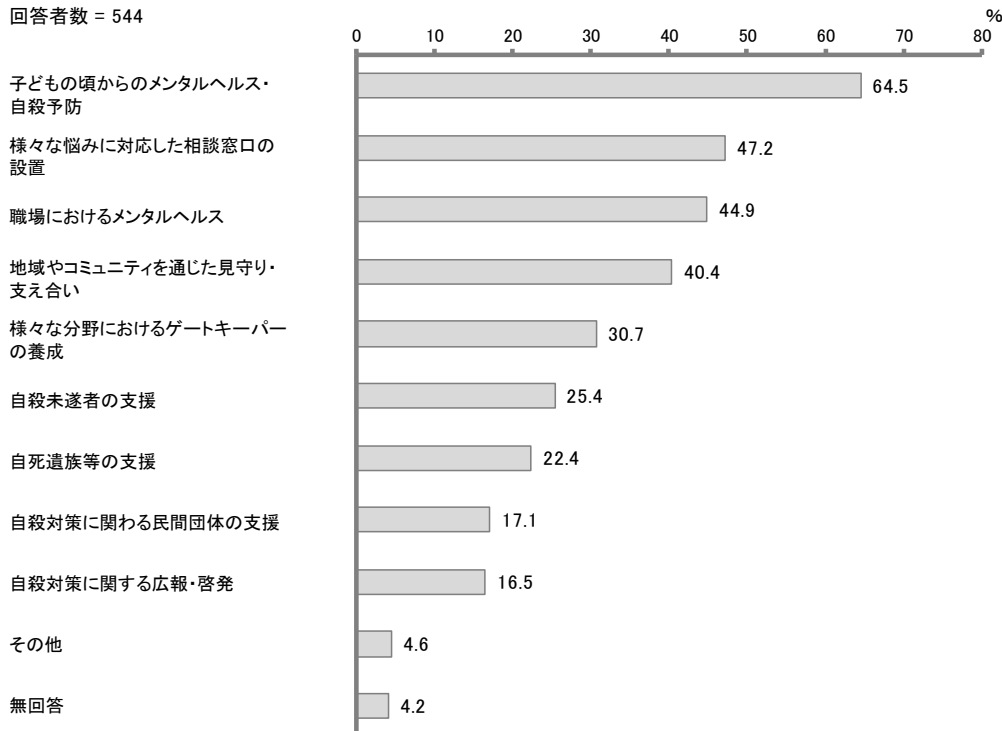
* 「うつ病のサイン」

- 自分で感じる症状
気分が沈む、悲しい、イライラする、集中力がない、好きなこともやりたくない、大事なことを先送りする、物事を悪いほうへ考える、決断ができない、自分を責める、死にたくなる
- 周りから見てわかる症状
表情が暗い、涙もろい、反応が遅い、落ち着きがない、飲酒量が増える
- 身体に出る症状
眠れない、食欲がない、便秘がち、身体がだるい、疲れやすい、性欲がない、頭痛、動悸、胃の不快感、めまい



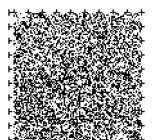
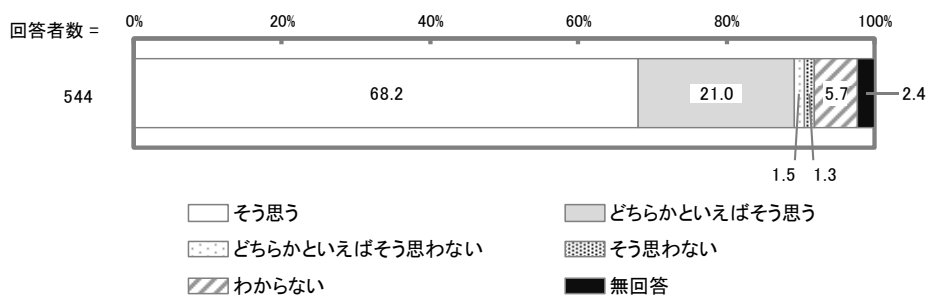
シ 今後、どのような自殺対策が必要になると思うか（複数回答）

今後求められるものとして、どのような自殺対策が必要になると思うかについて、「子どもの頃からのメンタルヘルス※・自殺予防」の割合が64.5%と最も高く、次いで「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」の割合が47.2%、「職場におけるメンタルヘルス」の割合が44.9%となっています。



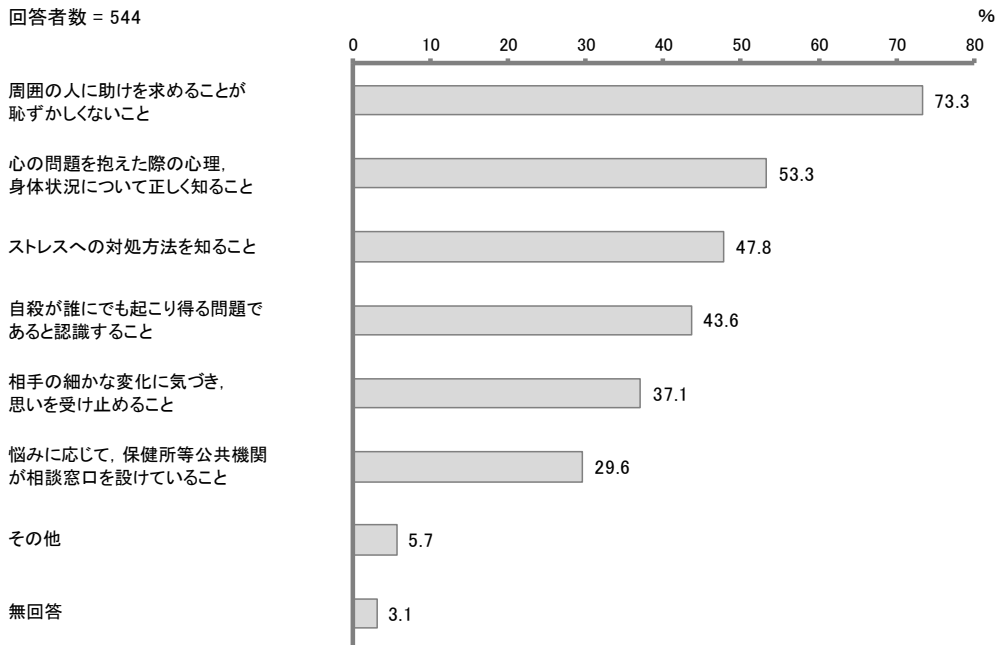
ス 児童生徒が、自殺予防について学ぶ機会があった方がよいと思うか

児童生徒が、自殺予防について学ぶ機会があった方がよいと思うかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“学ぶ機会があった方がよいと思う”の割合が89.2%と高くなっています。



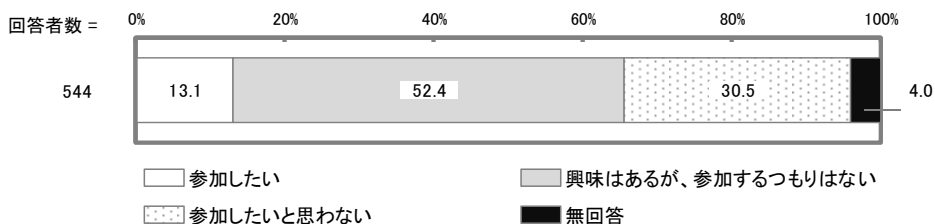
セ 児童生徒が、なにを学べば自殺予防になると思うか（複数回答）

児童生徒の段階において、どのようなことを学べば、自殺予防に資すると思うかについて、「周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと」の割合が73.3%と最も高く、次いで「心の問題を抱えた際の心理、身体状況について正しく知ること」の割合が53.3%、「ストレスへの対処方法を知ること」の割合が47.8%となっています。



ソ ゲートキーパー*研修に参加したいと思うか

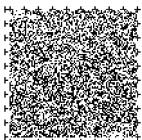
調布市が実施しているゲートキーパー研修に参加したいと思うかについて、「参加したい」の割合が13.1%ですが、「興味はあるが、参加するつもりはない」の割合が52.4%と“興味のある”人が半数以上となっています。



* 「ゲートキーパーとは」（厚生労働省ホームページから抜粋）

「ゲートキーパー」とは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。

自殺対策では、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤立・孤独」を防ぎ、支援することが重要です。1人でも多くの方に、ゲートキーパーとしての意識を持っていただき、専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こしていくことが自殺対策につながります。



3 調布市の自殺対策の課題

調布市の自殺者数および自殺死亡率^{*}は、ともに減少傾向にあり、全国・東京都に比べても低くなっています。調布市の平成28年の自殺死亡率は13.3で、市民意識調査の結果からは、市民の約5%にあたる人が「1年以内に自殺を考えたことがある」と考えられるため、自殺対策を推進していく必要があります。

なお、文中の矢印「⇒」は、現状に対して取り組む施策の分野を表しています。

○現状

・自殺の背景に身体疾患やうつ状態が関与しているものが多い

地域の自殺の特徴をみると、さまざまな悩みが深刻化し、身体疾患やうつ状態になり、自殺に至っているものが増えてきています。(P9)

⇒基本施策1「生きることの促進要因への支援」、基本施策4「市民への啓発と周知」

・30～49歳の女性では、「妊娠・子育て」に悩んでいる人が多い

市民意識調査の結果から、性・年齢別に悩みやストレスの原因をみると、30～49歳の女性では「妊娠・子育て」の悩みが占める割合が高くなっています。(P20)

⇒基本施策1「生きることの促進要因への支援」

・自殺対策への関心は高いが、ゲートキーパー研修への参加意欲は低い

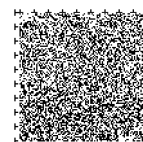
市民意識調査の結果から、ゲートキーパー研修に「興味はある」人が半数以上いますが、その中の「参加したい」人は1割にとどまっています。また、身近な人から死にたいと打ち明けられた時に「ひたすら耳を傾けて聴く」人が4割弱となっています。(P26, 23)

⇒基本施策2「自殺対策を支える人材の育成」、基本施策4「市民への啓発と周知」

・適切な支援につながりたいと思っている人が多い

市民意識調査の結果から、悩みを相談したり、助けを求めたりすることに「ためらいを感じない」人が約6割です。また、うつ病のサインに気づいた時に医療機関を利用したいと思う人が約7割となっています。(P22, 24)

⇒基本施策3「地域におけるネットワークの強化」、基本施策4「市民への啓発と周知」



・高齢者の自殺が多い

地域の自殺の特徴をみると、「無職で同居家族がいる60歳以上の男性」が1番多く、次いで「無職で同居家族がいる60歳以上の女性」と、高齢者の自殺が多くなっています。

女性では全国・東京都と比べて60歳代の自殺死亡率*が特に高くなっています。市民意識調査の結果から、悩みやストレスの原因をみると、60～69歳は「家族の介護・看病」「家族親族関係の不和」が多く、70～79歳になると「自分の病気」「身近な人の死」「夫婦の不和」が多くなっています。(P9, 11, 20)

⇒重点施策1「高齢者への支援」

・働いている年代の自殺が多く、勤務・経営に関する悩みが多い

地域の自殺の特徴をみると、「有職で同居家族がいる40～59歳の男性」が3番目に多く、有職者については被雇用者・勤め人が多くなっています。また、市民意識調査の結果からも、この年代の「職場の人間関係」「仕事の不振」に関する悩みが1番多くなっています。(P9, 20)

⇒重点施策2「就労者への支援」

・子ども・若者に自殺が多い

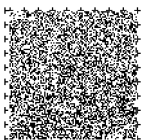
性・年代別の自殺死亡率をみると、男性は全国・東京都と比べて20歳未満、30歳代が高く、若い世代の自殺が多くなっています。平成29年における年代別の死亡原因をみると、「自殺」が20歳代、30歳代では第1位と若年層の死因の上位になっています。(P11, 12)

⇒重点施策3「子ども・若者への支援」

・子どものうちからの自殺対策を望む声が多い

市民意識調査の結果から、今後求められるものとして「子どもの頃からのメンタルヘルス*・自殺予防」「周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと」など、子どものうちからSOSを出しやすい環境が必要と考える市民が多くなっています。(P25, 26)

⇒重点施策3「子ども・若者への支援」



・自殺の背景に生活困窮が関与しているものが多い

地域の自殺の特徴をみると、失業や生活苦から自殺に至っているものが多くなっています。また、自殺の原因・動機別自殺者割合をみても、「経済・生活問題」が自殺原因の第3位となっています。(P9, 15)

⇒重点施策4「生活困窮者への支援」

○課題

近年、核家族化等が進み、家族が支え合う力が低下し、地域とのつながりが希薄化していく傾向にあります。そのため市民一人ひとりが、自分の周りにいる悩みを抱えている人の存在に気づき、声をかけ、必要に応じて適切な相談機関や専門家等につなぎ、見守ることができるよう、あらゆる機会を通じて自殺対策を啓発し、自殺対策を支える人材を育成していくことが重要です。また、自分自身が困難やストレスに直面した時に、周りや支援機関等に助けを求められるよう、子どもの頃からのメンタルヘルス^{*}対策を行う必要があります。

自殺死亡率^{*}の減少の流れを促進するために、市民全体を対象とした基本施策のほか、性や年齢に応じた特徴を踏まえ、特に対策が必要と思われる「高齢者」「就労者」「子ども・若者」「生活困窮者」を対象とした取組を実施することが重要です。

